

経済産業副大臣 / 衆議院議員

大串まさき

<https://m-ogushi.com>

国会活動のご報告

- ✔ 通常国会が開会中
- ✔ 政策解説：経済安全保障
- ✔ 視察報告：現場の声を聴いています

ガブリック VOL. 45



大串まさき プロフィール

デジタル副大臣、経済産業大臣政務官
自民党 厚生労働部会長、副幹事長などを歴任

- ▶ 昭和41年生まれ。報徳学園高卒。東北大学大学院修了。IHI、松下政経塾を経てJAISTにて博士(知識科学)を取得。大学准教授の後に現職(5期)。
- ▶ 社会保障・産業政策・デジタル改革等の分野に注力。
- ▶ 家族は妻と2人暮らし+保護猫1匹(三毛猫)。趣味は釣り・絵画・多肉植物など。スポーツは高校まで剣道一筋。好きな食べ物はカレーとラーメン。座右の銘は「威ありて猛からず」。

動画を配信中!

政策の解説からプライベートまで気軽に見られる動画を「X」「Instagram」「YouTube」で配信しています。右のQRコードからフォローしてください。



お問い合わせ先

自民党の党员になって応援して頂ける方、ボランティアとしてお手伝い頂ける方、国政報告会への参加を希望される方など、お問い合わせは下記までお願い致します。

〒664 兵庫県伊丹市中央 1-2-6
-0851 グランドハイツコーワ 2-12
TEL:072-773-7601
FAX:072-773-7602

✉ info@m-ogushi.com



通常国会がスタートしました。少数与党として臨む通常国会ですが、国民生活に直結する来年度予算の審議から、新たな取り組みに向けた各省の法案まで幅広い議論がなされます。私は今期は、経済産業副大臣という政府側の立場ですが、しっかりと入念に対応を進めて参ります。いずれも昨年から自民党内で議論を進めて、多くの人の思いを受けて一年がかりで丁寧に積み上げた予算と法案です。石破政権としては、新しい時代の地方創生や防災など特徴的な政策も打ち出しています。

経済産業副大臣として担当する法案

経済産業副大臣として臨む通常国会ですが、これまでの検討を踏まえて提出される四つの法案を担当しています。

- ① AI・半導体産業への大規模投資を喚起する法案
(生成AIや半導体の成長需要を見込んで安定生産に向けた取組の支援を実施)
- ② GX投資・資源循環を促進する法案
(CO₂排出削減のため、化石燃料の賦課金徴収や、排出量の取引制度を導入)
- ③ 事業者の早期の事業再生を円滑化する法案
(倒産に至る前から早期の事業再生のため金融債務の減免などの支援を実施)
- ④ 中小企業の賃上げに向けた価格転嫁等の取引適正化を後押しする法案

(下請を中小受託事業者に改め対等な関係とし規制強化等で取引適正化を推進) 未来への投資を促す法案もあれば、経済や生活の底上げを目指す法案もあります。実務レベルでもきめ細かな対応も含めて慎重に取り組んで参ります。



国会での丁寧な答弁で多くのご理解を得ることが重要



武藤大臣とともに経済団体と経済政策について懇談



福島への経産省からの派遣者・出向者から報告を受ける

地元のみなさまへ

副大臣として仕事をしていると、複雑・多様な仕事の中身は伝わりにくいと実感しています。地元から国会に送って頂いている以上、恥ずかしくないようにしっかりと幅広い視点で、この国のため、国民のために仕事をしています。目の前の課題はもちろん、世界に目を向けて未来のための政策に取り組んでいます。とはいえ、数少ない機会を大切にして、地元での様々な行事にも顔を出し、ご挨拶をさせて頂いています。お声がけくだされば、可能な限りお伺いします。



新伊丹駅頭にてご挨拶



餅つき大会でのご挨拶



消防出初式にてご挨拶



1.17の集いに出席

政策解説：経済安全保障

最近、よく聞く「経済安全保障」について解説します。私も経済産業副大臣として、さまざまな政策課題に取り組んでいますが、ほぼ、全てと言って良いくらい、この経済安全保障が関係しています。国によって定義や考え方は異なりますが、日本では「我が国の平和と安全や経済的な繁栄等の国益を経済上の措置を講じ確保すること」と定義（2022年に閣議決定）されています。

背景となった国際情勢

かつては軍事技術が民間の産業に利用される**軍民転換**が一般的でした。しかし近年では民生技術が軍事能力の向上に大きく貢献するようになり、技術革新の担い手が官から民へ移行してきました。特に量子、AI、バイオなど重要新興技術は民間主導の流れが加速しています。つまり、**産業・技術基盤強化自体が安全保障に直結**してきています。この流れの中で、各国が重要物資・技術の囲い込みを進めています。

	Phase 1：冷戦下	Phase 2：ポスト冷戦	Phase 3：大国間競争
国際秩序	東西対立	多国間自由貿易体制	地政学リスクの高まり
経済政策	特定産業の保護	規制緩和	国家介入の拡大
国境管理	技術流出防止	輸出管理	先端・新興技術の管理

二つの理念に基づく法制化

国際環境の変化を受けて2020年に自民党が提言、2022年に**経済安全保障推進法**が成立。基本には二つの理念を持っています。一つは、**戦略的自律性**（維持強化）：我が国の国民生活及び社会経済活動の維持に不可欠な基盤を強靱化、他国への過度な依存を回避。もう一つは、**戦略的不可欠性**（獲得）：国際社会全体の産業構造の中で、我が国の存在が国際社会にとって不可欠であるような分野を戦略的に拡大。いずれも強い日本をつくっていく上で重要な理念です。

中国依存からの脱却

中国は重要物資の輸出制限、関税引き上げなどの経済的圧力で、他国の政策を自国に有利な形に変更させようとしています。日本に対しても2010年に尖閣諸島沖での船舶衝突事件を受けて**レアアースの輸出規制**を強化しました。2023年からは、重要な**ガリウム・ゲルマニウム・黒鉛**の輸出管理措置を開始していますが、日本はこれらの物資の生産・精錬の7割前後を中国に依存しています。一刻も早く、このような中国依存からの脱却が必要で、私が経済産業副大臣として頻りにアフリカ出張をしたり関係強化を進めているのも、このためです。他にも、特に守るべき特定社会基盤（**基幹インフラ**※）に対するサイバー攻撃も増え続けています。この分野への対応（維持管理委託の事前届出など）も経済安全保障の重要な課題となっています。

※**基幹インフラ**：15分野（電気、ガス、石油、水道、鉄道、自動車運送、海運、航空、空港、電気通信、放送、郵便、金融、クレジット、港湾運送）に今後「医療」が加わる予定。

視察報告：現場の声を聴いています

水素還元製鉄技術の視察

国のグリーンイノベーション基金（**GI基金**）で支援している、水素還元製鉄の技術開発の現場を視察しました。**脱炭素社会の実現**に向けてCO₂排出量の多い製鉄分野が大きな課題となっています。その鍵を握るのがプロセスの改革です。水素還元による製鉄は吸熱反応（熱が奪われて鉄が溶けない反応）なので難しいとされてきましたが、CO₂排出削減率33%を達成するなど、少しずつ前進しています。この新しい技術も応援して参ります。



小規模試験高炉にて COURSE50（水素吹込）の実証を視察、現在は実炉適用に向けて準備中です

神戸医療産業都市の視察

神戸医療産業都市は医療・バイオテクノロジー・製薬産業など、今後、伸びていく分野の研究開発や企業活動を促進するために整備された研究開発拠点です。バックス・バイオイノベーション社は、アジア発の**統合型バイオファウンドリ**、つまり受託開発・製造をおこなう会社です。バイオ医薬品の分野は産業構造が変化し国際的な水平分業が進んでいます。また**遺伝子治療薬**（がん治療等に活用）を中心とした、受託開発製造企業であるサイト-ファクト社の製造現場も拝見しました。



サイト-ファクト社にて川真田先生からキムリア点滴静注の製造工程の説明をいただきました

未成小学校のICT教育現場視察

宝塚市未成小学校のICT教育現場を視察しました。校長先生が私の過去の文部科学委員会での質問内容をご存知で、お声がけいただき視察の機会を頂きました。現場での**ICT機器の活用実例**や、そのためのクラスやグループ編成など、生徒の特性にあわせたきめ細かな対応を拝見しました。政策の目標でもある「**個別最適な学びと協働的な学びの実現**」を目指して、現場での課題を整理して政策改善に取り組みます。



ICT端末の利用だけでなく生徒の協働促進など、きめ細かな対応や課題を視察から学びました

編集後記

国民生活を守るため予算は年度内に責任を持って成立させなければなりません。しかし少数与党という立場では、これまで以上にさまざまな意見に耳を傾けなければ予算の成立が難しい状況です。財源を示さない無理筋の要求に

応じて次の世代に迷惑を掛けるぐらいなら、交渉が決裂しても良いのではないかとさえ考えてしまいます。野党も要求をするならば予算に対して相応の責任を持ってもらいたいものですが、なかなか通じません。責任政党という言葉の意味を考えさせられる国会です。